

令和5年度 園内研修報告書

テーマ

園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫
～保育の振り返りを通して～



園内研修メンバー

園長	城間 真由美	副園長	照屋 三加代		
主幹保育教諭	吉田 美和	指導保育教諭	高良 千尋		
保育教諭	與那嶺 愛理	外間 美穂	座波 裕希乃	新崎 沙樹	
	玉城 美幸	宮城 由季乃	花城 雄太	島袋 繁之	
	諸見里 裕葉	金城 麻紀子	金城 奈津紀	大城 果菜子	
	山城 望実	大城 恵	玉城 美由紀	金城 有紗	

南城市立幼保連携型認定こども園 大里こども園

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	目標	1
III	方法	1
IV	内容	1
V	園内研修年間計画	2
VI	構想図	3
VII	実践事例	
	事例1 「人形劇やってみたいな」	5
	事例2 「保育ドキュメンテーションの共同作成を通して」	8
	事例3 「ありさん、みーつけた！」	11
	事例2 「体を動かすって楽しいね」	14
VIII	成果・課題・対応策	17

園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫 ～保育の振り返りを通して～

I テーマ設定の理由

近年、グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、子供たちを取り巻く環境も大きく変化している。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説には、「園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること」と述べられ、「保育教諭等は、園児の主体的な活動が確保されるよう、園児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、保育教諭等は、園児と人やものとの関わりが重要と考え、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、園児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。」と明記されている。そのことから、園児一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した指導を行えるように環境構成と援助の工夫を考える必要がある。

本園は、戸外遊びが好きで好奇心旺盛な子が多く、虫取りや泥団子作りを楽しんだり、室内では折り紙や廃品を使って製作遊びをしたりする姿が見られる。しかし一方で、遊びが続かず、遊び場を転々としている子もいる。また、保育教諭といふことで安定する子やコロナ禍を経て同年代の子たちとの関わりや家庭での経験の少なさや自信のなさ、興味や関心の偏りなどの課題もあると感じた。

そこで、園児の興味や関心に基づいた保育をするために園児や保育教諭間での保育の振り返りを通して、遊びに主体的に関わり、没頭する中で思考を巡らせ、心を動かしながら豊かな体験をし、遊びこむことができると考え、本テーマを設定した。その手だてとして、保育カンファレンスを行い、カリキュラム・マネジメントを通して、園児の興味や関心を捉え、園児が遊びこめるための環境構成と保育教諭の援助について研究を進めていくこととする。

II 目標

園児との遊びの振り返りや保育教諭の保育の振り返りを通して、園児の好奇心や探究心を引き出し、遊びこむための環境構成や援助の工夫を図る。

III 方法

- 1 園児が遊びこむための環境構成の工夫を図る。
- 2 園児との遊びの振り返りや保育教諭間の保育の振り返りを通して、保育改善につなげる。
- 3 園児、保護者、保育教諭がともにワクワク・ドキドキするような環境構成や援助の工夫を図る。

IV 内容

- 1 講師を招聘し、理論研修を行う。
- 2 園児の興味や関心に沿って、室内、園庭の環境を見直し工夫、改善を図る。
- 3 保育ドキュメンテーションを取り入れ、保育内容を可視化する。
- 4 保育カンファレンスを行い、園児の興味や関心を捉え、園児理解を図る。

(1) 遊びこむとは

「園児は、園生活の中で様々な環境に触れ、興味や関心を持ってかかわり、いろいろな遊びを生み出す。この遊びを持続し発展させ、遊び込むことができれば、園児は楽しさや達成感を味わい、次の活動に取り組んだ際にもやり遂げようとする気持ちを持つようになる。」と幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説で述べられている。より深い学びとしての「遊びこんでいる」姿について秋田(2009)は、「「遊びこんでいる」とは、第一に「没入している」状態、集中している状態であり、第二にその子どもたちならではの発想によって遊びが展開継続している過程にある状態であり、第三に遊びの素材を使いこな

し、わが物としていく状況といえるでしょう。そのために大人からは一見むだにも見える繰り返しの時間や物が必要になるのではないかと述べている。遊びこむことが主体的に探究できる力の礎になると考える。

(自己を発揮する。遊びや生活の中に目的や目標をもつ。いろいろな事に興味・関心をもって自ら意欲的に関わっていく。自分で遊びを選択し、自ら遊びを展開し、自ら問題を解決しようとする。見通しをもって、遊びをやり遂げる。)

(2) 保育カンファレンスとは

保育の事例や特定の事象に対して、問いを持ち、保育教諭間で園児の遊びの姿や保育教諭の関わりと環境の構成などについて感じたことや思ったりしたことの意見を出し合い、幼児理解を深め、保育の質の向上になると考える。

立場や経験年数に関係なく、対等に意見を出し合う合ことで、自分が知らなかった園児の姿を知ったり、自分にはなかった園児を見る視点に気付いたりして、幼児理解が深まり、園児を多面的に見ていく力が育つと考える。

(3) カリキュラム・マネジメントとは

全体的な計画にも留意しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成する。(組織的配列)

教育課程の実施状況を評価して、その改善を図っていく。(PDCA サイクル)

教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことこれらを通して、さらに、組織的かつ計画的でなければならない。

(4) 園児の興味や関心を捉えるためには

保育教諭は、園児が自ら主体的に環境と関わり、自分の世界を広げていく過程そのものを発達と捉え、園児一人一人の発達の特性(その園児らしい見方、考え方、感じ方、関わり方など)を理解し、その特性やその園児の興味や関心に応じた保育をする。

園児一人一人の興味や関心に基づいた保育をするには、保育教諭が園児の行動やつぶやきなどに温かい関心を寄せ、心の動きに応答する、共に考えるなどの基本的な姿勢で保育をする。

(5) 遊びの振り返りとは

活動した後に行われる話し合いである。保育教諭が活動について子ども達に問いかけ子ども達の気持ちや考えをみんなで共有することで、活動への理解が深まり、次回への期待と工夫が生み出されると考える。

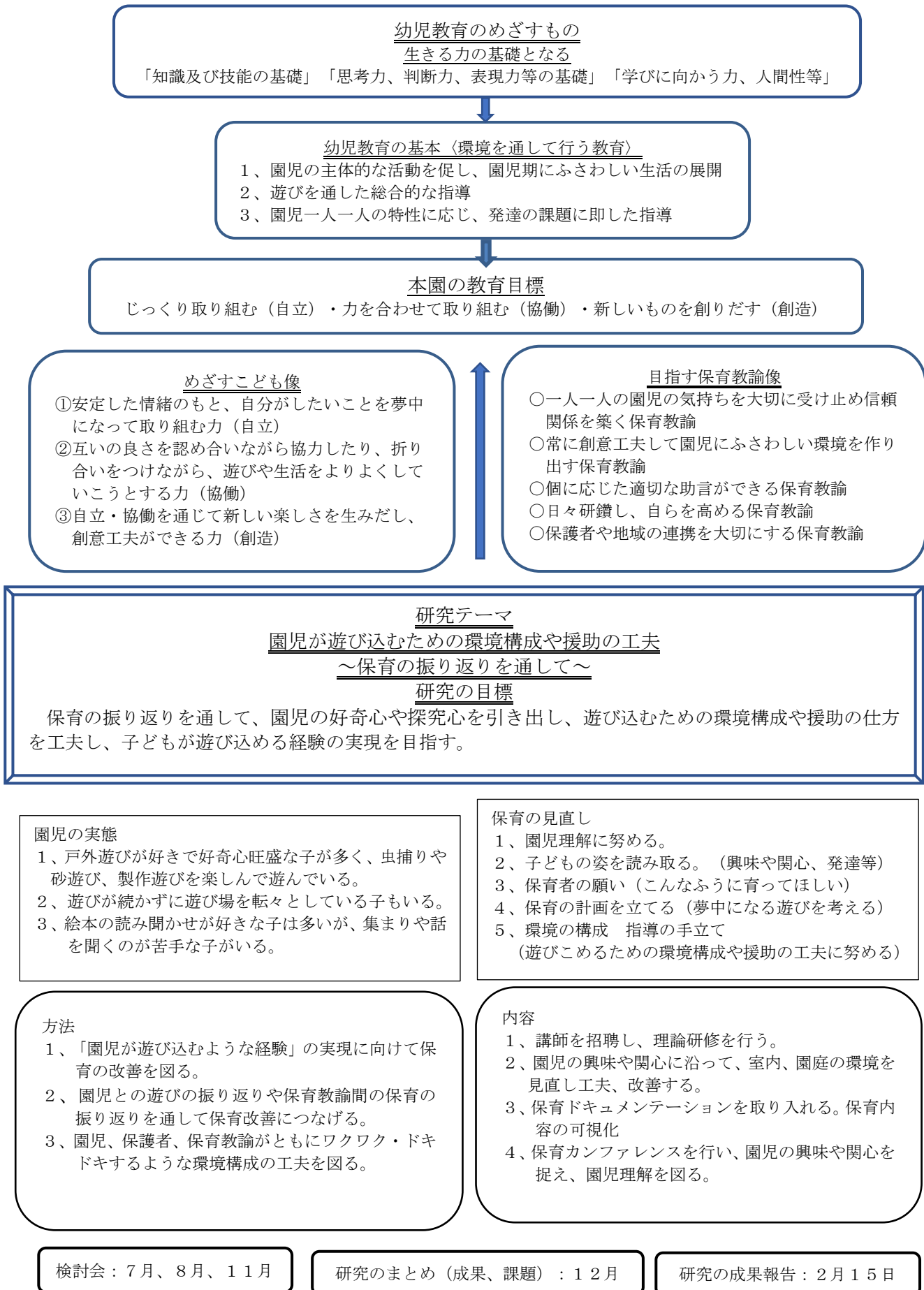
遊びを振り返ることで、自分の気持ちだけでなく、友だちの思いにまで関心が広がり、活動への意欲がさらに深まり、次の遊びへとつながると考える。

保育教諭が行うことは、質問することや投げかけることである。子どもに考えさせることが保育教諭の大切な役割である。

V 園内研修年間計画

月 日	研 究 内 容
4月	・園内研修 研究テーマ テーマ設定の検討（園児の実態把握を基に話し合う）
5月10日（金）	・5園研修会の事前説明会(市主催) 園内研修のすすめ方・統一テーマについて・実践事例の書き方
5月26日（金）	・園内研修統一テーマの捉え(市主催) 講師：名渡山 よし乃氏 講話「園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」
5月～3月	・週案会議や保育カンファレンスを実践し、記録に残す。（期の振り返り） （園児の変容の読み取りと環境構成・援助の見直し）
6月21日（水）	・南城市幼児教育施設保育者研修会(市主催) 講師：名渡山 よし乃氏 講話「指導計画の作成について」 ～要領・指針を踏まえて～
7月10日（月）	・「コスモ☆ストーリー保育園の園運営から学ぶ」(市主催) 「乳幼児教育の充実を図る工夫」 講師：コスモ☆ストーリー保育園園長 天願 順優氏
7月7日（金）	・南城市幼児教育施設保育支援訪問(幼児教育センターによる訪問) 保育参観&懇談：保育の振り返り 訪問者：大城美恵子アドバイザー 伊集恒子コーディネーター 仲本留美子係長 大城奈々子係長 親川裕子保育支援員
7月下旬	・事例検討会①
11月13日（月）	・講話「子どもを中心とした園づくり」(市主催) ～子ども・保育者の主体性を育む～ 講師：白川こども園園長 外間 尚美氏
11月28日（火）	・大里こども園 公開保育&保育の振り返り 指導助言 幼児教育センター 幼児教育アドバイザー 大城 美恵子
11月下旬	・事例検討会②
12月	・研究の成果と課題について
2月22日（木）	・5園研園内研修報告会

VI 令和5年度 研究構想図



Ⅶ 実践事例

事例1 「人形劇が始まるよ」 6月から8月 5歳児 Ⅱ期・Ⅲ期(6月～8月)

発達の過程 5歳児 Ⅱ期・Ⅲ期(6月～8月)

- ・友達のなかで自分なりの考えを出し自信をもって遊びながら、仲間意識が育っていく時期
- ・共通の遊びを通してイメージや考えを出し合い、友達関係を深め意欲的に遊びを進めていく時期

期のねらい

- 自分の考えを表したり友だちの考えを受け止めたりする楽しさを感じながら、目的や課題を共有して遊ぶ。
- 友達と一緒に協力したり、工夫したりして遊びを展開していく。

①園児の実態

- ・絵を描いたり製作したりすることが大好きで、よく描いたり切ったりしている。折り紙でチューリップやウサギさんを折り、割り箸をつけたのを、「先生、見てみて」と見せに来た。どんな遊びができるかなと子どもたちと相談したところ、人形劇をすることになる

②保育教諭の願い

- ・自分なりの言葉で表現したり、友だちと言葉のやりとりをしたりして楽しんでほしい。
- ・友達と共通の遊びを通してイメージや考えを出し合い、自分たちで考えたり工夫したりして、遊びを進めていく楽しさや満足感を味わってほしい。

③環境構成

- ・様々な素材や用具を手にとりやすいところにおいておく。
- ・いろいろと考え、試したり工夫したりした経験や友だちと一緒に楽しんだことを継続できるように、作ったものや必要な素材や用具を手にとりやすい場所に置いておく。
- ・遊びにじっくり取り組めるような時間やスペースの確保をする。

④保育教諭の援助

- ・イメージしたものを作ったり描いたりする姿を認める。また、イメージを引き出したり、膨らませるための言葉かけをする。
- ・自分の考えを友達に伝えたり、相手の話に耳を傾ける姿を認める。また、人形劇の内容や役割について話し合う姿を見守ったり、仲立ちしたりする。
- ・子どもたちと相談しながら人形劇場など遊びに必要なものを準備したり作ったりする。
- ・できたものは帰りの会などで発表してもらい、周囲に知らせる。

1. 「人形劇やってみたいな」

◎園児の姿 ☆環境構成 ◎保育教諭の援助・願い

◎製作が大好きな子ども達。折り紙でチューリップやウサギを折り、割り箸をつけたのを保育教諭に「見せてみてー」と作ったものを見せにきた。

◎作ったもので友だちとの遊びが広がってほしい。
◎保育教諭も作った作品でどんな遊びができるか一緒に考えてみる。

人形劇やってみたいな！



かわいいのができたね！
どんな遊びができるかな？

◎人形劇やってみたい！とすぐに取り組む子どもたち。
◎子ども達とテーブルに積み木を乗せたものを人形劇の台に見立てて人形劇場を作る。
◎早速帰りの会で披露すると、他の子どもたちも興味津々で見入っていた。
☆人形劇に使いそうな色々な素材や道具を手に取りやすい場所に置いておく。
◎人形劇を披露する子と相談してBGMを流す。

◎子ども達からは「楽しかった」「私もやってみたい」「見えにくい」の感想があり、人形劇を披露した子たちからは「狭くてやりにくい」との意見があり、みんなで話し合って人形劇の舞台があったほうがいいと意見がまとまり、舞台を手作りすることに！
◎みんなで話し合いながら人形劇をつくっていったほうがいい。



音楽は「かわいくてーめん」を流してー！

2. 「人形劇をつくろう」

◎子ども達と考えて作った人形劇の完成！
◎人形劇の舞台をどのように作るか、一緒に倉庫などで道具や用具を探して作ってみる。子ども達のイメージを引き出したり膨らませたりする。

折り紙でおったハートもいっぱい飾ろう！



「人形劇」って書くこう！

3. 「人形劇が始まるよ！」

◎人形劇が完成すると、さらに人形劇に登場する動物やお花、女の子など、どんどん作ったり、人形劇の練習したりする子ども達。
◎友達と言葉で伝え合い、相談しながら進めてほしい。
◎色々な素材を用意しておく。
◎作ったものや途中のもの片付ける場所を子どもたちと相談し、自分たちで遊びを進められるようにする。

使う順番に並べよう！



お花のお話作ったよ！

4. 「お客さんにみせたいな」

○帰りの会で人形劇を披露することが続く。
J「先生、○組の妹にも見せたい」
R「○○さん(隣のクラス)たちにも見せたい、呼んできていい？」
保育教諭「いいね、招待したいね」
K「映画のチケットみたいな作りたいな」
とのことから、チケット作りが始まる。
※必要なものを一緒に考えながら友だちと考えを出し合いながらチケットを作る姿を見守ったり、援助したりする。



先生、
チケットって書いて！



○園長先生や副園長先生にもチケットを配り、見てもらう。



○お客さんのチケットに穴あけパンチで穴をあけ、チケットの確認をしている。

《考察》

- ・友達と考えを出し合いながらイメージを共有することで、遊びに必要なものやルールを創り出し、自分たちで遊びを進めていく楽しさや満足感を味わい遊びの発展に繋がったと考える。
- ・子ども達が手に取りやすい場所に人形劇の必要なものを置いておくことで、自分たちで遊びを進めることができ、遊びの継続へとつながった。
- ・人形劇の中で考えたこと、感じたことなどを保育教諭や友達と伝え合うことで、相手の良さに気づいたり、協同して活動する楽しさを味わい、友達関係を深めることができた。

事例2 「保育ドキュメンテーションの共同作成を通して」

遊びの姿から園児理解を深めるために、年長担任でドキュメンテーションの共同作成をしている。

(1) 作成の方法

①遊びの写真を掲示する

保育カンファレンス前に、園内で楽しんでいる遊びの写真を用意する。写真の撮影者がタイトルと幼児のつぶやきを事前に記入する。

②写真から読み取る

SOAPの視点を基に、各担任が各自読み取った内容を用紙に記入にする。

幼児理解	[S] 幼児の姿	子どもの遊びの様子を把握する。
	[O] 読み取り	園生活を見通した上で、子どもの育ちにおいてどのような意味があるのかを解釈する。どこに面白さを感じていたか
理解に基いた援助	[A] 教師の願い	子どもの生活する姿に即して次にどのような経験が必要なのかを導き出す。
	[P] 環境の構成	実際の保育の中で次に必要な経験が充足されるように適切な環境を構成する。

「どっちが たかく つめるかな？」10月中旬

エピソード

・うさぎブロックを縦につなぎ、天井付近までつながったことを喜びあう姿が見られた。それに刺激を受け、更に複数人でうさぎブロックを積み上げることを楽しむ姿が見られる。数日遊びが再開されずにいたので、遊びを広がるようにと教師が初めにうさぎブロックを積み上げていた園児に「どっちが高く積みあがるか勝負しよう」と誘い一緒に取り組む。周りの子も興味を示し、人数が増え、チームに分かれ、対決を数日に亘って楽しむ。対決を楽しんだ後、その経験を生かし空き箱を高く積み上げ遊ぶ園児。空き箱とブロックでの対決へ遊びが展開していった。



①うさぎブロックと空き箱を積み上げ、どちらが高くなるか勝負をする。

[O] 読み取り



椅子に乗って高いところを担当している子や、自分たちより高くなったものを、さらに高く積むための工夫が見られるね。

子ども同士で互いにアイデアを出し合って遊びを進めているね。



どっちの勝ち？



ちょっとだけうさぎ
ブロックが大きいかな

②横から見るが勝敗がわからずタブレットで撮影し、定規で比べる。

【O】読み取り

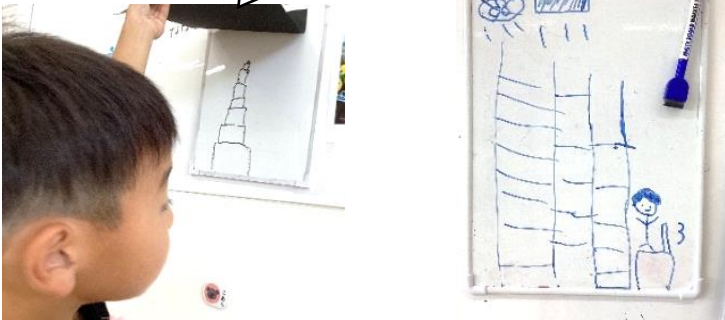


自分のチームの勝ちを主張するのではなく、勝敗を正確に見極めようと試行錯誤しているね。

たかくできたから
つみかた かいとおこう



おっきいのから
おいていくさー・・・



③後日うさぎブロックチームは練習中に高く積みあがったブロックの積み方を記録、空き箱チームは話し合いどうしたら倒れないかを考える。

【O】読み取り



自分たちが書いた絵を参考にしながら、高く積むにはどうしたらよいか友達と話し合っている様子が見られますね。

友達同士で勝負の結果を話し合ったり、今日の結果を絵に描いたりして、次の勝負につなげている。



箱やブロックを積んで遊ぶ中にも、子ども達のアイデアがいっぱいですね。自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を遊びに取り入れたりしながら、競い合う姿が見られました。

令和5年	月	日	タイトル
			担当の記入欄
			0 (読み取り)
			A (教師の願い)
			P (環境の構成)

令和5年 10月 17日 (火)	タイトル【今日も負けないよ】							
	担任A	担任B	担任C	担任D	担任E	担任F	担任G	担任H
0 (読み取り)
A (教師の願い)
P (環境の構成)

S (幼児の姿) を記入した写真と読み取り表を回覧し、各担当が SOAP の視点で、記入する。

どっちがたかくつめるかな?
南城市立大里こども園 5歳児
令和5年10月17日

①うさぎブロックと空き箱を積み上げ、どちらが高くなるか勝負をする。

②横から見るが勝敗がわからずタブレットで撮影し、定型で比べる。

③後日うさぎブロックチームは練習中に高く積みあがったブロックの積み方を記録、空き箱チームは話し合いどうしたら倒れないかを考える。

共同作成した
保育ドキュメンテーション

10月下旬、その活動を見ていた他のクラスが刺激を受け、「自分達もやってみたい。」とその遊びが広がっていった。その後、段ボールをどうやったら高く積み上げるか試行錯誤しながら、クラス対抗の勝負を楽しむ姿が見られた。



遊びが発展し、子ども達が「スポーツフェスティバル (運動会) でも箱積み対決をしたい。」と声があがり、協働する姿を保護者の前で披露することができた。

高く積み上げるために、巧技台や木の棒を自分達で考え準備し、取り組んでいた。

- 考察
- SOAP の視点でドキュメンテーションを共同作成することで、一人一人の興味や関心を捉え、次の保育計画に生かすことができたと考える。
 - 園児の育ちや学びを共通理解することで、一人一人に合わせた援助や視点を基に、環境の構成について再確認できた。
 - ドキュメンテーションの共同作成方法や作成時間の確保の仕方など工夫が必要である。

事例3 「ありさん、みつけた！」 発達の過程：4歳児Ⅲ期・Ⅳ期(9月～11月中旬)

Ⅲ期(8月～10月)

○気の合う友達とつながりを求め、自分の思いを表して遊ぶ時期
期のねらい

- ・身近な自然の美しさ、不思議さなどに気付き、遊びに取り入れようとする。
- ・気の合う友達と一緒に、考えたり工夫したりしながら遊ぶ。
- ・学級の友達と一緒に活動することを喜び、集団のルールを守って遊んだり生活したりしようとする。

①園児の実態

- ・8月、気の合う友達と、砂遊びや色水などいろいろな遊びに興味をもち楽しんでいる。台風の後、蟻が行列を作り、なにか一生懸命運んでいるのを発見し、友達と観察している。



Aさん「あっ！蟻さんがたくさんいるー！」
Iさん「なにか持ってるよ。シジミチョウの羽だ！」
Aさん「すご！おっきいの持ってる〜！」
Iさん「みんなでだから持てるんじゃない！」

②保育教諭の願い

- ・自然の美しさや不思議さに気付き、発見したことや感じたことを友達と伝え合ってもらいたい。
- ・自分なりの表現が相手に伝わる喜びを感じながら、昆虫になりきって楽しんでほしい。

③環境構成

- ・様々な素材や用具を自由に使えるように用意する。
- ・継続して遊べるように、置き場所などを園児と相談し、柔軟に場を構成していく。

④保育教諭の援助

- ・園児のつぶやきに耳を傾けたり、園児の視線に合わせて目を凝らしたりして、生き物と対話しながら、細かな気付きを受け止めていく。
- ・自分なりに表現する楽しさや達成感を味わい、自信をもてるように、一人一人の表現する姿を認めていく。
- ・友達と言葉などのやりとりをしながら楽しんでいる様子を見守り、友達と遊びを共有できるように関わっていく。



- ・8月、クラスで発見を共有することで、蟻を探して観察する子が増えてきた。
蟻が登場する絵本を読んだり、おやつを少しだけちぎってウッドデッキに置いて蟻が運ぶのをわくわくしながら心待ちにしている。

【言葉による伝え合い】 【自然との関り・生命尊重】

・9月、観察したり調べたりし、蟻になりきって小さくなってちょこちょこ動いたり、大きな道具を協力して運んだり蟻になりきって園生活を楽しんでいる。



重たいから手伝ってよ～！

ありさん出発！
わっしょい～わっしょい！

今行くから
待ってて～

・10月、絵本で蟻がお菓子を運ぶ場面を見つけ、友達とアイデアを出し合いながらお菓子作り、園を動き回る。



ありはちっちゃいから、
ケーキ大きく作ろう！

テープ貼るから、
こんなしてて～

ありさんわっしょい～！
どこに運ぶ～？

わ～チョコが落ちちゃう！

持つから
待ってよ～！



【保育教諭の読み取り】

発見を伝え合いながら、蟻になりきって遊んだり掃除をしたり、園生活を過ごす姿が見られる。自分なりに表現する楽しさを味わい、保育教諭や友達に認められることで自信に繋がっている。

生き物に対するの好奇心や探究心が深まり、積極的に関わることを通して、昆虫の命を大切にしようとする姿がみられる。また、詳しく知りたいと絵本で調べたり、絵本で見つけた蟻の好きな食べ物を製作したり、虫眼鏡で観察しながら描いたり、新しい発見につながっている。

【協同性】

【豊かな感性と表現】

【言葉による伝え合い】

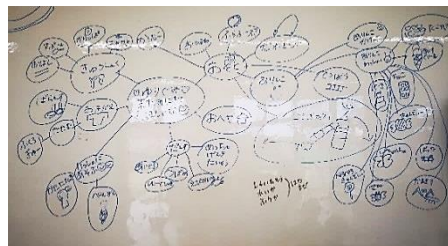
【自然との関り・生命尊重】

IV期(11月～12月)

○気の合う友達と関わる中で思いの違いに気付き、戸惑ったり葛藤を経験したりする時期のねらい

- ・思いを主張し合い、折り合いをつける体験を重ね、決まりの必要性や協力する楽しさなどに気付く。
- ・感じたことを表現し合い、工夫して作り上げる喜びを味わいながら遊ぶ。
- ・難しいことにも挑戦し自己発揮しながら遊んだり生活したりしようとする。

・11月、みんなに見てもらいたい！という思いから、スポーツフェスティバルで披露することに。蟻の友達も加わり、いろいろな昆虫になって巨大な食べ物を運びパーティーの準備をする種目になった。



ウェビングマップを通して、スポーツフェスティバルでやりたいことを子ども達と話し合い、可視化する。



スポーツフェスティバルでは、一人一人が自分の大好きな昆虫に変身し、自分達で製作した巨大なチョコレートやケーキを運ぶ種目をニコニコ笑顔で保護者の前で披露することができた。

イメージを共有し、自分達なりに表現することを楽しんでいる。

・12月、スポーツフェスティバルの後、パーティーごっこが始まる。

Aさん「みんなが来れる、おおきいパーティーがいい！」
保育教諭「廊下で作ってみる？年少・年長さんたちもみんな遊びに来てくれるかも。」

Mさん「やりた〜い！蟻のお家で友達よんでパーティーしたい！」

Kさん「この〜っくらい大きいパーティーしよう。」

Yさん「字かけるから、看板つくりたい〜」
と自分の考えを身振り手振り友達に伝えていた。

・アイデアたっぷりのパーティー会場では、蟻の巣迷路を通るといろいろな部屋がある。

Nさん「ここは映画館ね〜」「こっちは本読むところ！」

Kさん「俺も座りたい〜どいて。」

Hさん「いやだ！座ってるのに。自分でとってきて！」

保育教諭「ヘラクレスオオカブトは椅子運べるくらい、力持ちかな。」

Kさん「おれがみんなの椅子持ってくるよ！」

Nさん「おれオオカマキリで力強いから、一緒に手伝うよ！」

・友達の数を数えながら、昆虫になりきって椅子を運んでくる。

Nさん「先生！ここにチョコレートくっつけたい。おいしい椅子にしてみんな集めて、映画みながら食べる♪」

友達と思いや考えを伝え合いながら、新しいアイデアが生まれるのを楽しんでいる。

【協同性】

【言葉による伝え合い】

→ 思いが伝わらなかったり、イメージが食い違ったりしたときには葛藤する気持ちを十分に受け止め、伝え方を一緒に考えたり、時には言葉を補ったりしていくことで、気の合う友達だけではなく、いろいろな友達に自分の思いや考えを伝えようとしている。

保護者へ遊びの様子を知らせることで、幼児教育の理解に繋がっている。

Kさん 「アイスクリームもこっちに運ぼう！」

保育教諭 「なんの映画が始まるのかな？」

Kさん 「人間がうごく映画〜！」

・部屋の廊下のスペースを映画館に見立てて、廊下にある小窓から、部屋の様子をのぞき人間を観察している。



あっ！人間が
水飲んでる！

いろんな生き物になりきって
わくわく過ごす子ども達！

他の学年にも年中児の遊びを伝え、広い場所を確保することで、継続して遊ぶことができ満足感や達成感を味わった。

【言葉による伝え合い】

【豊かな感性と表現】

【数量や図形、
標識や文字への関心】

【健康な心と体】

ありの家はさ〜、こんな〜してこんな〜なってるわけ！（体でくねくねを表現しながら話している）

《考察》

・園児なりの表現が相手に伝わる喜びを感じたり、自分のしたいこと、相手にしてほしいことの言葉による伝え方に気付いたりすることで、新しいアイデアが生まれ遊びが発展・継続し深まったと考える。

・園児が心を動かされるような体験を通して、「面白そう、もっとやりたい」という園児の心の動きを捉え、多角的に園児の姿や保育教諭の援助について話し合い、その時期や園児の実態に応じた、必要な育ちや保育教諭の援助を確認しながら保育を見直すことで、遊びが発展し、遊びこむ姿につながった。

事例3 「体を動かすって楽しいね」発達の過程：3歳児 III期（9月中旬～11月中旬）

発達の過程 3歳児 III期（8月～10月）

○自分の好きな遊びを繰り返したり、友達と同じ動きをしたりすることを楽しむ時期のねらい

- ・保育教諭や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・好きな遊びを見つけて繰り返したり、友達と同じような言動をすることを喜んだりする。
- ・身近な動植物や素材などに自分から繰り返し関わり、遊びを楽しもうとする。

①園児の実態

- ・入園当初から、園庭にある固定遊具でのブランコやロッククライミング・滑り台など体を動かす遊びが好きで、保育教諭に手を添えてもらいながら一緒に楽しんでいる。

②保育者の願い

- ・さまざまな身体の動かし方を経験して、全身を動かして遊ぶ楽しさを体験してほしい。
- ・友達と一緒に同じ遊びを繰り返していくことで、友達に興味を持ち一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。

③環境構成

- ・遊戯室や保育室など広い室内で、リトミックなど曲に合わせた表現遊びから、巧技台や簡単なルールのあるボール遊びや玉入れなど皆で楽しめる運動遊びを用意する。
- ・3歳児の運動機能に合わせて「走る・渡る・跳ぶ・這う・ぶら下がる」など“体のバランスをとる動き”や“体を移動する動き”が経験できるような環境を整える。

④保育教諭の援助

- ・体を動かした遊びを保育教諭も一緒になって遊ぶことで、運動遊びが苦手な園児も一緒に遊べるような言葉かけや援助をする。
- ・3歳児の発達を考慮し、簡単なルールのある集団遊びを工夫し、取り入れた。
- ・園児一人一人の“やりたい”気持ちを尊重し、遊びの場や時間を保証する。

【保育教諭の読み取り】

・9月中旬、室内でも運動遊びができるよう巧技台を取り入れると、園児たちがそれぞれ好きな遊具で保育教諭に手を添えて貰ったり教えてもらいながら何度も挑戦したり、遊びを繰り返している。

Rさん「せんせいこわい…」
保育者「先生が手を掴むから怖くないよ」
「上手に渡れたね！」
Rさん「もう一回やる！」

Aさん「落ちそう～」
保育者「ゆっくりでいいよ」
Aさん「すすめない～」
保育者「ここの手で前の棒を掴むんだよ」
Aさん「できた！！」

・園庭にない運動遊具に最初は怖がりながら挑戦していたが、何度も繰り返していくうちに出来るようになると「先生！みててね！」と嬉しそうに披露している。



保育教諭に見守られたり援助してもらいながら、安心して好きな遊具を繰り返し挑戦することで、出来た喜びや達成感を味わっている。

今まで遊んだことのない運動遊具に挑戦することで、渡ったり、跳んだり体のバランスを取ったりと体の使い方を実際に体験しながら学んでいる。

同じ遊具で遊ぶ友達に興味をもち、一緒に真似て遊ぶことで楽しさを共有している。

【健康な心と体】

【自立心】

【思考力の芽生え】

・10月の親子体験活動で保護者と一緒に遊 大ー15 く
れんぼを振り返りの時間に「クラスでもやりたい！」という
園児の思いから、隣のクラスも交えて新聞紙かくれんぼをや
ることになった。

Nさん「今かくれるから
見ないでね」

Rさん「俺どこに隠れよう」

Nさん「ここだと見つから
ないかな？」

Rさん「俺も入るー！」

～ピアノの下に潜り込む～

保育者「もういいかい？」

全員「もういいよー！」

Aさん「みーつけた！」

Rさん「あーあ

みつかつちゃった！」

・隠れる人と探す人を交代ずつ変えながら、新聞紙で隠れき
れない時は友達が隠してくれたり、見つけれられると喜んで「も
う一回やる！」とルールのある遊びも楽しんでいる。



親子で楽しんだ遊びを今
度は友達と楽しみたいとい
う思いから、遊びの対象が
自分から友達へと広がって
いった。

保育教諭が「1、2…」と
数を数えたり「もういいか
い？」などの声掛けを一緒
にしていくことで、園児が
合図や言葉遊びを楽しむ姿
も見られる。また、“かく
れんぼ”というルールのある
遊びを友達と協力しながら
参加することで、一緒に
遊ぶ楽しさを味わうことが
できた。

【言葉による伝え合い】

【協同性】

【豊かな感性と表現】

発達の過程 3歳児 IV期（11月～12月）

○周囲の人や物への興味や関心が広がり、友達と一緒に過ごす楽しさを感じる時期
期のねらい

- ・進んで体を動かしたり、友達と言葉のやりとりを楽しんだりする。
- ・自分と同じ遊びを楽しんでいる友達に興味を持ち、一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・季節の変化に触れ、不思議さや面白さを楽しもうとする。

・11月のスポーツフェスティバルに向けて、これまで室内で
楽しんできた運動遊びを園庭でものびのび楽しめるよう運動遊
具を設置する。

Gさん「みて！自分でできる
よ～ほら！」

保育者「Gさん凄いね！
上手になってる」

Gさん「もう落ちないよ！」



室内から園庭とより広い
場所で運動遊びをすること
で、のびのびと思いつ切り
体を動かして楽しむ姿が見
られる。

これまでの運動遊びの取
り組みがスポーツフェステ
ィバルへの意欲に繋がって
きている。

・ケンケンパの広場では
Kさん「はじめはケンから
やるんだよ！」
全員「ケン、ケン、パ〜！」
保育者「最後ポーズする？」
Kさん「じゃーん！」
〜好きなポーズでゴール〜



・身体能力も高まり、園庭での活動時間が増えたことで、友達同士ルールのある集団遊びを楽しむ姿も見られる。

Aさん「だるまさんが
ころんだやろう！」
Iさん「いいよー！」
Aさん「だるまさんが〜
ころんだ！あ！
今動いたー！」
Iさん「次は鬼ぎめやろう！」
Aさん「いいよ！じゃみんなきて！おにぎめ…」
〜みんなの右足を真ん中に寄せて鬼を決めているAさん〜



また、出来るようになった喜びから、さらに自分たちで運動遊具をずらしたり調節したりともっと難しいことに挑戦したいと思う気持ちを育むことができた。

成長とともに、友達と一緒にルールのある集団遊びを通して友達と関わろうとする姿が見られる。

友達とのコミュニケーションを取りながらルールを守ったり、協力したりすることで協調性を育むことに繋がった。

【協同性】

【健康な心と体】

【言葉による伝えあい】

【考察】

- ・初めての運動遊びにも、保育教諭が側で見守ったり手を添えたりと援助していくことで、自分から繰り返し挑戦しようとする姿につながった。
- ・運動遊具やルールのある集団遊びなど様々な運動遊びを体験することで、運動能力や体力の向上だけでなく、友達と一緒に体を動かす楽しさを味わうことができた。
- ・日頃の振り返りから「楽しかったこと」を次に繋げていくことで、遊びを展開したり、自分たちで遊びを進めていく楽しさに繋げることができた。

VIII 成果・課題・対応策

【成果】

- ・遊びに必要な素材や教具を園児と考え一緒に用意する中で、試行錯誤をしながら取り組むことで遊びこむ姿につながった。
- ・保育教諭間で保育ドキュメンテーションを取り入れた保育の振り返りを通して、園児の興味や関心を捉え、環境構成と援助の工夫をすることで継続した遊びの展開につながった。
- ・園児や保育教諭間の保育の振り返りを通して、園児が遊びに主体的に関わり、豊かな体験をすることで遊びこむ姿につながった。

【課題・対応策】

- ・保育教諭間で園児の遊びの様子について共有することで、異年齢の良さを生かした遊びの展開ができるように工夫を図っていく。
- ・園児の興味関心を捉え、発達段階に即した援助と環境構成の更なる工夫を図っていく。